

共生をテーマにオペラ

東京オペラ協会 日中合作歌劇「蓬萊の国 徐福伝説」

「蓬萊の国 徐福伝説」の一場面 5日、小松電機産業内・太陽ホール



NPO法人東京オペラ協会(石多エドワード代表)による日中合作歌劇「蓬萊の国 徐福

伝説」のハイライト公演が5日、小松電機産業株式会社・人間自然科学研究所内にある太

陽ホール(松江市乃木福富)で開催された。東京オペラ協会は1976年に設立。オペ

ラを通じた国際交流、一般の市民と共に楽しめるオペラをコンセプトに国内外で公演活動を行っている。最初に石多さんが同協会の活動を紹介し、さまざまに歌を披露。国内では珍しいハンガリーの民族楽器・ツインバロン奏者の斉藤浩さん(松江市在住)と同協会メンバーとの共演もあった。その後、オリジナルオペラ「蓬萊の国 徐福伝説」のハイライトを上演。作品は、司馬遷の史記にある徐福を題材にしたもので、徐福が秦の始皇帝の命令で、不老不死の仙薬を蓬萊の国・日本に求めに来たことにヒントに、「不老不死とは何

か」「人間の幸せはどこにあるか」「自然とともにあることの喜びをなぜ忘れていったのか」など、自然と人間の共存をテーマにオペラを披露。出雲の国から全ての命が共に歩む道を指し示す作品となっていた。

公演後、「日本の縁結びから世界の縁結びへ」対立の文明から共生の文化へを題材に、石多代表と同協会社長、石多昭夫さん、劇団幻影舞台座長の清原眞さんによる特別座談会も開催された。